

2011.03.14

## 森の小さな映画館で


 担当：  
Rica

ストックホルムからバスで40分北へ、ノスタルジックな小さな町・Norrtelje（ノールテリエ）があります。この町はかつてストックホルムからの週末田舎ぐらしエリアとして栄えました。今はストックホルムまで通勤圏内という事で、田舎暮らしを愛する数多くのストックホルム人が移り住んでいます。



ストックホルムの町中とは違いノールテリエの町を一步出るとそこは森が一面に広がります。ストックホルムから移り住んだ人たちはその森の中に生活しています。敷地内の木を切り薪をつくり暖炉の暖かい生活。それぞれの家の煙突からは白い煙が立ち登ります。ゆっくり時間が流れる生活です。

ノールテリエの町に一つだけある小さな映画館。昔懐かしいネオン管のサインと、ふくろうの看板があたかも手招きするかのごとく、私の心をぐっと引き寄せます。アメリカの画家Edward Hopper(エドワード ホッパー)の絵に出て来そうなこの小さな映画館でスウェーデン映画を見る事にしました。



『SVINALÅNGORNA—スヴィンナレンゴルナ』原作はスウェーデンに住む作家スザンナ・アラコスキーのものです。そして、2006年にスウェーデンの文学賞アグストブリーセット)を受賞。この作品は1970年代、スウェーデンの南部イースタードに住むフィンランドから移民して来た家族、アルコール依存症の父親の元で育った女の子の話。このように内容はかなりえぐいのですが、そこはスウェーデン映画。泥臭くならないところが凄い！ タイトルのスヴィンナレンゴルナとは直訳で『薄汚い建物郡』なのですが、主人公レエナが住んでいる市営住宅は230世帯のアパート群で『平穏な家』と名付けられ1964年にイースタードの町に開かれたものです。イースタードの市民によるとその地域は「映画のタイトルとは違い牧歌的なスポット」だと言います。たとえ周りからは良いイメージの場所でもレエナにとっては幼少の嫌な思い出の眠る場所は記憶から抹消したく、タイトルのようなイメージでしか無いのでしょうか。とはいえ、子供は親を選べないという悲しい定めの中、現実を見据えながら弟をかばい面倒をみる姿には泣けました。レエナちゃんががんばれ！

そして今回大人に成ったレエナを演じている今もっともスウェーデンで注目されている女優ノオミ・ラバス。彼女は今まで数々の話題映画に出演し、役柄によりここまで雰囲気を変えてくる女優は珍しいといえます。結構、驚かされました。今後も期待します。旦那さん役のオーラ・ラバスは私生活でもノオミ・ラバスと夫婦。この役者さんとはとにかくハンサムですね。二人が結婚後名字をラバスに変えたそうです。スウェーデンはどんな人でも名字を好きに変えられるので、時々、就職のため外国人もスウェーデン人ばい名字に改名することもあると聞きます。因に、スウェーデン特有の名字の作り方は昔々、名字が存在しない頃、名前から名字を制作したと伺います。父親や母親の名前の後ろに『son(ソン)-息子』もしくは『dotter(ドッテル)-娘』を付けます。例えば父親がエリックでその息子の名字ならエリクスソンになります。

余談はさておき、映画の見所については70年代の時代背景と、なんと言っても一般家庭のインテリアデザイン。今、日本でスウェーデンデザインが騒がれていますが、そのデザインのほとんどは60年代から70年代にかけてのデザイン。はっきりした色と大きなモチーフプリントのテキスタイル。スウェーデンの70年代は一般家庭でもおもいきりオシャレだったんですね。間接照明と大柄のテキスタイルを組み合わせた部屋には驚きを感じました。この映画のセットや時代背景は評論家の中で賛否両論なのですが、内容がえぐいので、一般の視聴者としてはこのくらいのビビッドな色合いと雰囲気作りに気持ち心が救われました。とにかく、インテリアデザインが記憶に残りました。ファッションはやはりキャスケット帽とパンタロン。70年代の王道ですね。映画の中での色合いも懐かしいというか、時代を彷彿とさせるものでした。空気が乾燥したようなオレンジ色。

そして、私の幼少時代のうっすらと残る70年代の記憶をちょっと振り返りつつ小さなノスタルジアの映画館を後にしました。



### WRITER PROFILE

Rica

ファッションデザイナー。ジュンアシダのデザイナーを経て代官山でオートクチュールのドレスサロン経営。のちにマルタ共和国→シシリア島...と北へ北へと移り住み、現在スウェーデン在住。2009年夏より、オリジナルブランド『Rosenkrona』を立ち上げ、北欧と日本で活動中 ([www.rosenkrona.com](http://www.rosenkrona.com))。各国の手工芸、アンティーク、アルゼンチンタンゴ、ワイン&食、秘境の町&村めぐりなど興味は広範囲。